



「エコノミスト未来賞 2024」 受賞者が決定!

昨年、「週刊エコノミスト」創刊100周年の記念事業として創設された「エコノミスト未来賞」。今年の受賞者16人が厳正な審査のもと決定し、6月21日(金)に千葉県浦安市のシエラランド・グランデ・トーキョーベイ・ホテルにて授賞式が行われた。当日は各受賞者の優れた活動や先駆的な事業が紹介・顕彰され、記念のトロフィーが授与された。

**先駆的な活動に光を当て
日本ビジネスの推進力に**

1923(大正12)年に創刊した週刊エコノミストは、マクロ経済を読み解く経済誌として時代の変遷を映し出し、世界経済の動きを記録・分析して社会に発信する使命を担ってきた。そして100周年を迎えた昨年、社会に新たな役目を果たすべく立ち上げたのが、次代を担う子どもたちが社会の仕組みについて学ぶ「キッズ起業塾」と、この「エコノミスト未来賞」である。

エコノミスト未来賞は、本誌がブランドサイトで紹介してきた企業から、日本のビジネスの未来を創造する特に優れた企業を顕彰するもの。創刊101年目となる今年は「エコノミスト未来賞2024」として、ヘルスケア部門「ウエルビーイング部門」ものづくり部門「プロダクト部門」、プロフェッショナル部門「SDGs部門」の6部門で16の企業を選出された。

**ビジネスの革新を通し
世界経済と人々に貢献**

授賞式では、冒頭、本賞を後援する毎日新聞出版の小島明日奈代表取締役(授賞式当時)が登壇。受賞者に敬意を表し、「人々や社会が求めるものを見極め新たなビジネスを創られた皆様に敬意を表したい。次の100年もこの国の経済、ビジネスを支えていただきたい」と述べた。

続いて表彰に移り、それぞれの受賞活動が紹介されたあと記念のトロフィーが授与され、各受賞者はこれまでの活動に込めた熱意や今後に向けた思いなどをスピーチ。「地方の建設業では新しい挑戦をする」と「変わったことをするな」と思われることもあるが、今回の受賞で自信をいたした。これからは社員ファーストで良い建物をお客様に提供していきたい。(三陽建設 阪本社長)。自分は大学時代の教育実習で問題のある生徒との触れ合いを通し、「コミュニケーションツールと



してのスपोर्टスの素晴らしさを知った。これからも少しでも多くの子どもたちにスポーツの楽しさを伝え、真つすくな成長を促していきたい」(スポーツコミュニティ 中村代表)。「大手IT企業時代にCRM(顧客関係管理)に日本から新たな考え方を提唱して世界に広め、それをスピンアウトして現在の会社を起業した。お客様と伴走する企業として、これからも多くの企業の力になっていきたい」(アーカス・ジャパン 松原社長)など、それぞれの分野でビジネスを革新し、社会に貢献しながら未来を切り開くメッセージが聞かれた。

**経済誌の使命を果たし
未来を創る企業を応援**

週刊エコノミストが創刊した19923年は関東大震災が起こった年で、日本経済も未曾有の被害を被った。その後も経済は常に変化を続け、現在もウクライナ侵攻によるエネルギー危機をはじめ各地で混乱が続いている。そうしたなかでも週刊エコノミストは、世界の動きを独自の視点で分析・発信し社会に貢献するとともに、未来を創造する先進的な企業を紹介し、その活動を応援していきたいと考えている。

**エコノミスト未来賞
2024
各部門 受賞者**

ヘルスケア部門
株式会社CODE7
代表取締役
薬原 匠司氏

プロダクト部門
グローバルサイエンス株式会社
会長
笠原 征夫氏
スポーツコミュニティ株式会社
代表取締役
中村 伸人氏
株式会社コムデザイン
代表取締役社長
寺尾 憲二氏

ウェルビーイング部門
株式会社フォーサイト
代表取締役社長CEO
山田 浩司氏
株式会社大生産業
代表取締役
梅村 忠生氏
三陽建設株式会社
代表取締役社長
阪本 仁彦氏

プロフェッショナル部門
越後天然ガス株式会社
代表取締役社長
小出 薫氏
アーカス・ジャパン株式会社
代表取締役社長
松原 晋啓氏
mk DUO合同会社
CEO
肘井 一也氏

ものづくり部門
株式会社鉞組
代表取締役
鉞 勇貴氏
株式会社オクシュー
取締役社長
熊本 辰視氏
ジャパン・エン지니어リング株式会社
代表取締役
南雲 一郎氏

SDGs部門
スズデンホールディング株式会社
代表取締役
鈴木 達也氏
株式会社Wholelife
代表取締役
今吉 裕之氏
一般財団法人SAITO MEDICAL GROUP
代表理事
齋藤 浩記氏